

福童法司遺跡

—福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書 第272集

2013

小郡市教育委員会

福童法司遺跡

—福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書 第272集

2013

小郡市教育委員会

<序 文>

小郡市は、北部における宅地開発や北東・中南部における工業団地の開発が相次いで行われ、現在福岡・久留米両市のベットタウンとして日々発展を続けています。これに伴い、交通網の整備も着々と進行しつつあります。

今回ここに報告いたします「福童法司遺跡」は、下町・西福童 16 号線整備事業に先だって小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。

遺跡は、三国丘陵から伸びる洪積台地の縁辺部に築かれており、近年盛んに開発が行われている福童区の 1 区画に位置します。今回の調査では、近代以降の遺構を多数発見したなかで、周辺遺跡で確認事例が増加しつつある 12 世紀から 14 世紀にかけての時代に相当する溝 1 条を確認しました。今回得られた成果が、小郡市の歴史を復元する一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民の皆様、現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に深く感謝を申し上げ、序文といたします。

平成 25 年 3 月 31 日

小郡市教育委員会
教育長 清武 輝

<例 言>

- 1、本書は、小郡市福童地内における下町・西福童 16 号線整備事業に伴って、小郡市教育委員会が平成 23 年度に発掘調査を行った福童法司遺跡の埋蔵文化財発掘調査の記録である。
- 2、遺構の実測は西江幸子、阿南翔悟、朱雀聰一郎が実施し、遺構の写真撮影は西江が実施した。
- 3、遺物の復元・実測・製図には、西江のほかに久住愛子、白木千里、衛藤知嘉子、佐々木智子、南條由美、平鷲直美、宮崎美穂子ら諸氏に多大なる協力を得た。また、遺物の写真撮影は（有）文化財写真工房に委託した。
- 4、遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標第 II 系（世界測地系）に則している。
- 5、本書で用いた標高は、東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。
- 6、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
- 7、本書の執筆・編集は西江が担当した。

本文目次

第1章	調査の経過と組織	1
1.	調査の経緯	
2.	調査の経過	
3.	調査の体制	
第2章	位置と環境	2
第3章	遺跡の概要	4
第4章	遺構と遺物	4
1.	周溝状遺構	
2.	土坑	
3.	溝	
第5章	まとめ	10

挿図目次

第1図	福童法司遺跡周辺遺跡分布図 ($S = 1/25,000$)	2
第2図	福童法司遺跡調査地位置図 ($S = 1/2,500$)	3
第3図	周溝状遺構・1号土坑実測図実測図 ($S = 1/40$)	5
第4図	1号溝・2号溝・3号溝・4号溝土層断面実測図 ($S = 1/40$)	7
第5図	5号溝土層断面実測図 ($S = 1/40$)	8
第6図	1号溝・3号溝・5号溝出土遺物実測図 (4: $S = 1/2$, その他: $S = 1/4$)	9

表目次

福童法司遺跡出土遺物観察表	10
---------------	----

図版目次

図版1	①北側調査区全景 (真上から) ②南側調査区全景 (真上から)	⑤2号溝E-E'ベルト土層断面(南側から)
図版2	①周溝状遺構完掘 (北側から) ②1号土坑完掘 (東側から) ③1号溝南側調査区完掘 (北側から) ④1号溝北側調査区完掘 (南側から) ⑤1号溝A-A'ベルト土層断面 (東側から) ⑥1号溝B-B'ベルト土層断面 (南側から)	①3号溝完掘 (北側から) ②3号溝F-F'ベルト土層断面(南側から) ③4号溝完掘 (東側から) ④4号溝G-G'ベルト土層断面(東側から)
図版3	①2号溝北側調査区完掘 (南側から) ②2号溝南側調査区完掘 (東側から) ③2号溝C-C'ベルト土層断面 (東側から) ④2号溝D-D'ベルト土層断面 (南側から)	⑤5号溝北側調査区完掘 (南側から) ②5号溝南側調査区完掘 (北側から) ③5号溝H-H'ベルト土層断面 (南側から) ④5号溝I-I'ベルト土層断面 (南側から) ⑤5号溝J-J'ベルト土層断面 (南側から)
		図版6 1号溝・3号溝・5号溝出土遺物

付図

付図 福童法司遺跡全体図 ($S = 1/100$)

第1章 調査の経過と組織

1. 調査の経緯

福童法司遺跡の発掘調査は、小郡市福童字法司139-8が「下町・西福童16号線」道路整備事業の対象地となったことから、平成23年8月25日小郡市役所道路建設課より埋蔵文化財の有無に関する照会（事前審査番号11070）が提出されたことに始まる。市教委では、これを受けて平成23年10月7日に申請地の試掘調査を行った結果、地表下約80cm～90cmの深さで遺構が確認されたため、開発に先立って埋蔵文化財に関する協議を行った。結果、平成23・24年度事業として調査及び発掘調査報告書を刊行する事で同意を得た。調査費用に関しては、小郡市役所道路建設課より小郡市教育委員会文化財課が予算の執行委任を受けた。

2. 調査の経過

発掘調査は平成24年1月10日から同年3月14日にかけて実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

- 1月10日 調査対象地の仮囲いを設置。
南側調査区において重機による表土剥ぎ開始。（～11日）
- 1月12日 発掘道具の搬入。（～13日）
- 1月16日 発掘作業員を投入し、南側調査区の遺構掘削開始。
- 2月3日 南側調査区の全景写真撮影。
- 2月6日 南側調査区の遺構実測終了。
- 2月8日 南側調査区において重機による埋め戻し。
北側調査区において重機による表土剥ぎ開始。（～9日）
- 2月16日 発掘作業員を投入し、北側調査区の遺構掘削開始。
- 2月28日 北側調査区の遺構実測終了。
- 3月2日 北側調査区の全景写真撮影。
- 3月12日 北側調査区において重機による埋め戻し。
- 3月14日 調査完了。

3. 調査の体制

福童法司遺跡の調査の体制は、以下のとおりである。

〔平成23年度・平成24年度〕

小郡市教育委員会

教育長 清武 輝
教育部長 吉浦大志博
文化財課長 片岡 宏二
係長 柏原 孝俊
技師 西江 幸子（調査・整理担当）

〔発掘作業従事者〕

荒巻国利、石井京子、伊東みさ子、小川高征、黒瀬明、佐藤照子、田中賢二、森下弥寿治
(敬称略)

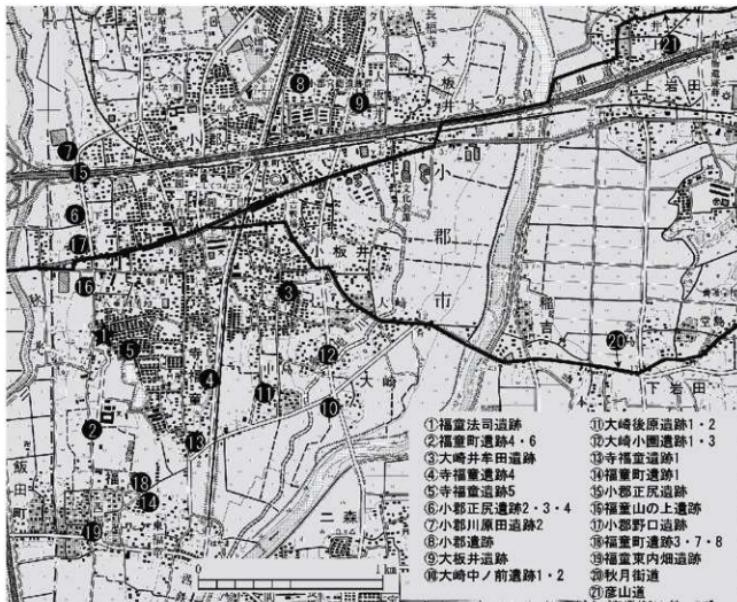
第2章 位置と環境

小郡市は、中央部を南北に宝満川が流れ、北西部に通称三国丘陵、東部に花立山（標高 130.8 m）から伸びる丘陵があり、南側は緩やかに下る平坦な台地へ移行し、筑後平野へと連なる。

福童法司遺跡（1）は、三国丘陵からならかに伸びる低位台地の縁辺部に位置し、遺跡の西側には秋光川が流れている。以下では、本遺跡の周辺地域に分布する遺跡を中心に歴史的環境の概要を示す。

本遺跡周辺地域で人々の活動が最初に確認されたのは、福童町遺跡4（2：市報告 226 集）であり、繩文時代後期の土器の欠片が1点出土した。小郡市内において繩文時代の活動を確認した事例は少ないものの、近隣では大崎井牟田遺跡（3：市報告 55 集）において集石炉に伴って押型文土器が出土している。

弥生時代になると、人々の活動は活発になる。寺福童遺跡4（4：市報告 221 集）において中期の中広形銅戈9本が埋納された状態で確認され、寺福童遺跡5（5：市報告 208 集）において柳葉式磨製石鎌を伴う前期の木棺墓や中期を主体とする土棺墓群等の墓域が確認されている。また、本遺跡の北側には小郡正尻遺跡2・3・4（6：市報告 100 集・107 集・205 集）を中心として中期の集落が広がり、小郡川原田遺跡2（7：市報告 163 集）では後期後半から終末にかけての井堰が見つかっている。そして、何よりも近隣では本遺跡東側において、当時の拠点集落と考えられる小郡・大板井遺跡群（8・9）やこの遺跡群から派生したと考えられる大崎中ノ前遺跡1・2（10：市報告 116 集・123 集）や大崎後原遺跡1・2（11：市報告 247 集・256 集）といった集落が大崎区を中心に広がっている。



第1図 福童法司遺跡周辺遺跡分布図 (S = 1/25,000)

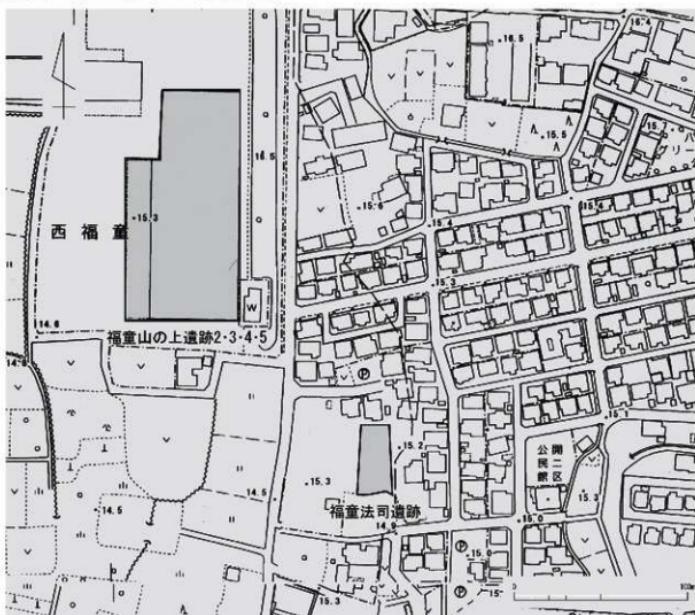
古墳時代になると、小郡川原田遺跡（7：市報告 95 集）で周溝状遺構を検出するが、周辺で同時期の集落は確認されていない。近隣では本遺跡東側にある、初頭から前期にかけての外来系土器が多数出土した大崎小園遺跡1・3（12：市報告 24 集・136 集）や外来系器種を多量に埋置した前期の方形周溝墓4基を確認した寺福童遺跡1（13：市報告 144 集）があり、他地域との交流が想定されている。一方で、福童町遺跡1（14：市報告 203 集）のように在地系の土器しか出土しない遺跡も近隣にはある。

古代になると、古代筑後國御原郡衙に比定される小郡官衙遺跡（8）を中心に官道や集落が広域で見つかっており、近隣では、小郡正尻遺跡（15：県横断道 7 集）や福童町遺跡4・6（2：市報告 226 集）において区画溝が検出されている。

中世になると、本遺跡周辺の福童山の上遺跡2・3・4・5（16：市報告 100 集・114 集・170 集・171 集）で区画溝や水田に利用したと考えられる多数の溝が検出され、近隣の小郡正尻遺跡2（6）や小郡野口遺跡（17：市報告 73 集）でも土坑を中心人々の活動が確認されている。また、本遺跡の南側の福童遺跡3・7・8（18：市報告 225 集・237 集・240 集）では建物群を中心に区画溝が検出されている。

近世になると、本遺跡の南側を中心に福童町遺跡3（18）において畠、福童東内畑遺跡（19：市報告 226 集）で井戸や溝など当時の集落域が確認されている。また、本遺跡の北側では、肥前から小郡、松崎を経由して筑前へ抜ける秋月街道（彦山道）（20）が延宝元年（1673）に整備され、現在の国道 500 号線沿いを中心小郡町として栄えた。

本調査地周辺は、開発に伴い発掘調査が増加しており、この地域の歴史を復元するにあたり、今後の発掘調査の成果が期待される地域である。



第2図 福童法司遺跡調査位置図 (S = 1/2,500)

第3章 遺跡の概要

福童法司遺跡は、小都市の中央部、三国丘陵からならかに伸びる低位台地の縁辺部に位置し、標高15.5m前後、遺構検出面で14.4m前後を測る。開発が及ぶ以前には畠地として使用されていたため、表層は厚さ約80cmの耕作土で覆われている。その下層に黒ボク土の層が堆積し、その下より遺構検出面である茶褐色ローム層を検出した。

福童法司遺跡は、木の根による搅乱が一部見られたものの、周溝状遺構や溝を中心に遺構を検出した。福童法司遺跡で検出した遺構・遺物は以下のとおりである。

●遺構

- ・周溝状遺構 1基
- ・土坑 1基
- ・溝 5条

●遺物

- ・土師器
- ・青磁
- ・陶磁器
- ・黒曜石

第4章 遺構と遺物

1. 周溝状遺構

周溝状遺構（第3図、図版2）

調査区中央において検出した周溝状遺構である。周溝は全周しており、規模は、幅60～80cm、深さは全周10cm前後である。周溝の断面形状は逆台形であり、最下層には一面に1cm台の小石が敷き詰められていた。周溝状遺構の中央の地山面において遺構の存在は確認できなかったため、この遺構が墳墓である可能性を立証することはできなかった。周溝を含む遺構全体の大きさは南北長330cm、東西長325cmを測る。

遺物は、土師器の皿で回転糸切りを施したもの1点と土師器の小片1点が出土したが、小片のため図化するにいたらなかった。

2. 土坑

1号土坑（第3図、図版2）

調査区北側の西壁際において検出した土坑である。平面形は、120cm×95cmの隅丸方形を呈し、深さは35～45cmを測り、西南方向に向かってやや深く掘り込まれている。東側には、5号溝に向かって伸び、5号溝の一部を切る上面幅40cm、底面幅10cmの細い溝がある。1号土坑と5号溝をつなぐ何らかの機能を有していた溝と考えられる。

遺物は、土師器片が1点出土したが、小片のため図化するにいたらなかった。

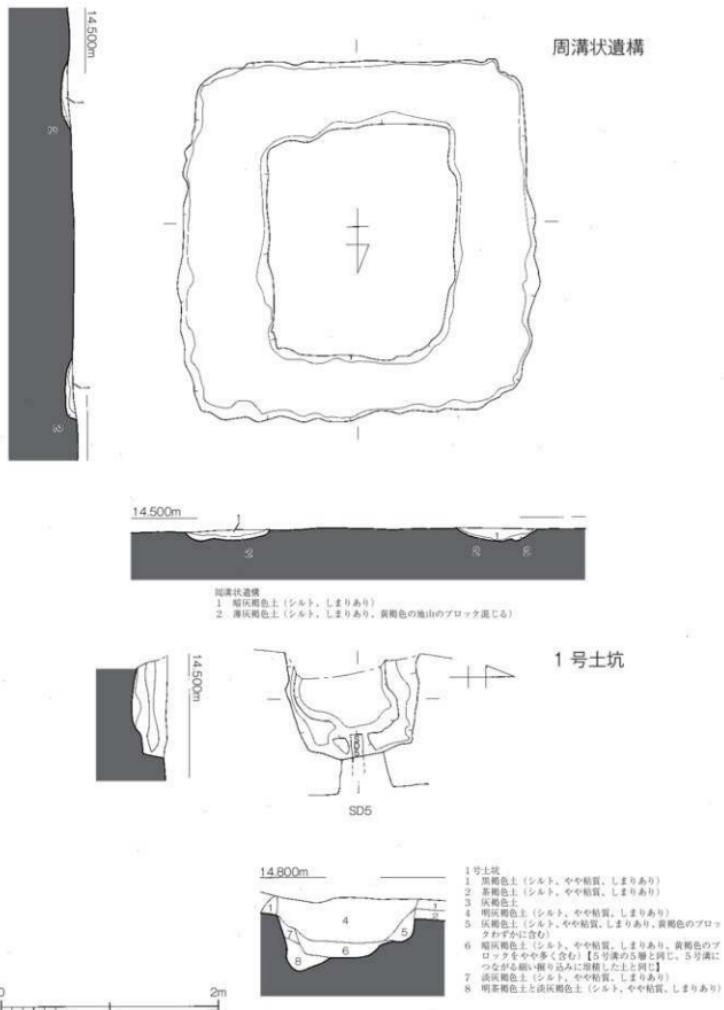
3. 溝

1号溝（第4図・付図、図版2）

調査区東壁際から南壁際において検出した、L字状に伸びる溝であり、2号溝と3号溝、5号溝を切る。遺構面を検出する際に遺構を削平してしまったのか、遺構の途中が途切れているものの、現状で全長約31.5m、幅55～75cm、深さ20cm前後を測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土はレンズ状堆積である。

遺物は陶器片や土師器片、黒曜石の剝片が出土したが、小片のため図化するにいたったものは少ない。
出土遺物（第6図、図版6）

1は土師器の鍋の口縁部片であり、外面はススけている。2・3は磁器の小片である。2は猪口であり、



第3図 周溝状遺構・1号土坑実測図 ($S = 1/40$)

内外面ともに釉薬がかかっている。3は皿であり、内面見込に五弁花文をコンニャク印判しており、外面見込にも印が押されている。また、内面は砂目が付着している。4は黒曜石の剝片である。

2号溝（第4図・付図、図版3）

調査区の中央部から北側にかけてL字状に伸びる溝であり、1号溝と5号溝に切られ、3号溝を切る。現状で全長22.5m、幅115～140cm、深さ25～45cmを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、レンズ状堆積である。

遺物は、土師器片1点が出土したが、小片のため図化するにいたらなかった。

3号溝（第4図・付図、図版4）

調査区の東側において検出した南北方向に伸びる溝であり、1号溝と2号溝、4号溝に切られる。現状で全長1.6m、幅45cm、深さ25cmを測り、断面形状はU字状を呈する。埋土は、レンズ状堆積である。遺物は、土師器片や青磁片が数点出土した。

出土遺物（第6図、図版6）

5は土師器の甕の口縁部片である。6は土師器の皿であり、口径8.3cm、底部は回転糸切りが施されている。7は青磁の碗であり、外面には蓮弁の文様を有し、内面には見込に草花文を有する。6・7ともに13世紀中葉頃のものと考えられる。

4号溝（第4図・付図、図版4）

調査区の南側において検出した東西方向に伸びる溝であり、3号溝を切る。現状で全長5.8m、幅60cm、深さ25cmを測り、断面はU字状を呈する。埋土は、単層である。

遺物は、土師器片や白磁片が数点出土したが、小片のため図化するにいたらなかった。

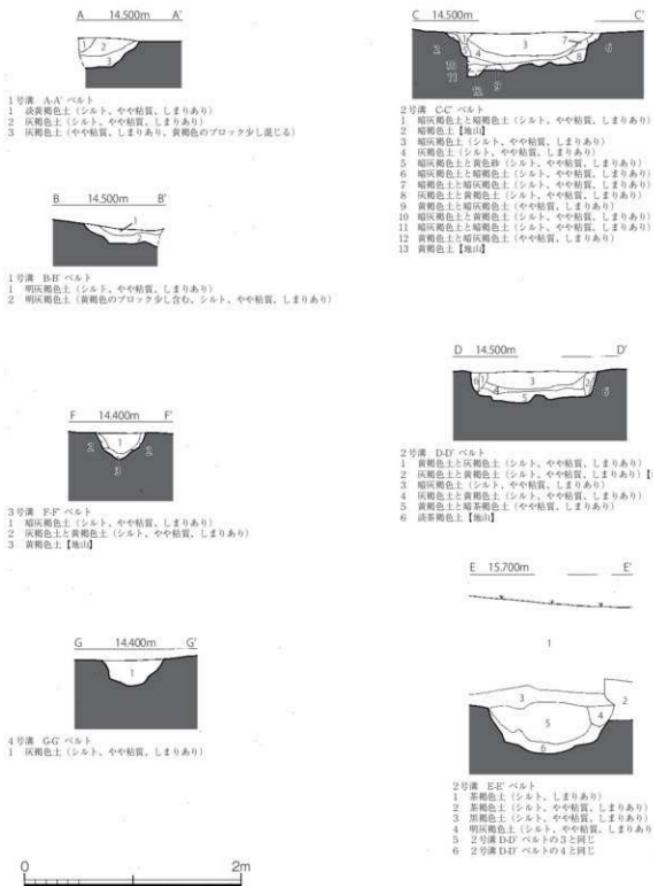
5号溝（第5図・付図、図版5）

調査区の西側において検出した南北方向に伸びる溝であり、2号溝を切り、1号溝に切られる。現状で全長27.3m、幅230～255cm、深さ30～45cmを測り、断面は逆台形を呈する。底面には、南北方向に伸びる3条の溝状の掘り込みがみられる。埋土はレンズ状堆積である。

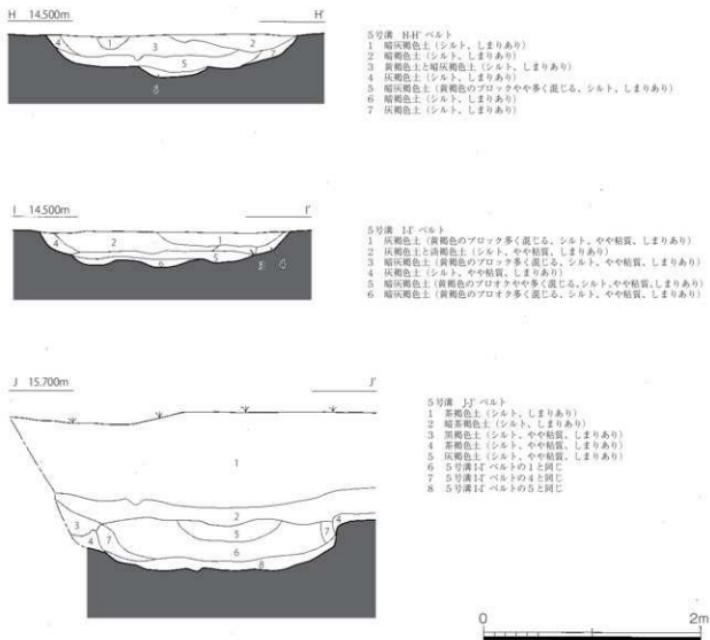
遺物は、土師器片を中心に、陶器片、磁器片が出土し、須恵器片、弥生土器片、青磁片もわずかに出土したが、小片であるため図化するにいたったものは少ない。

出土遺物（第6図、図版6）

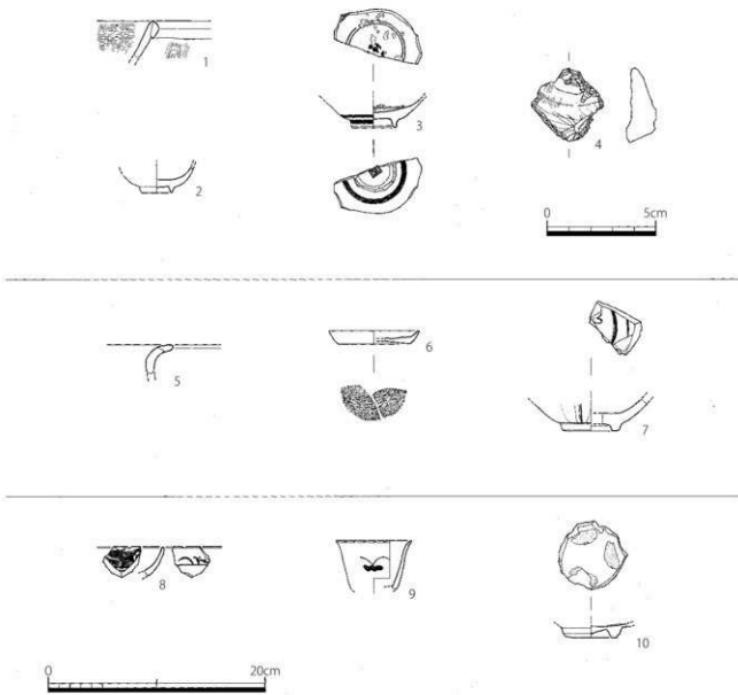
8・9は磁器の破片である。8は皿の口縁部片であり、内外面には染付が施されている。9は猪口の口縁部から胸部にかけての小片であり外面に染付が施されている。10は白磁の高台部片であり、高台部は中央が厚くなるよう削り出しが行われている。見込には砂目が付着している。



第4図 1号溝・2号溝・3号溝・4号溝土層断面実測図 (S = 1/40)



第5図 5号溝土層断面実測図 (S = 1/40)



第6図 1号溝・3号溝・5号溝出土遺物実測図 (4:S=1/2、その他:1/40)

第5章　まとめ

今回の調査で検出した遺構のうち、遺構の切り合い関係や出土遺物より時期が明確なのは、3号溝である。3号溝からは、13世紀中葉に相当すると考えられる青磁や土師器の皿が出土している。近隣では、福童山の上遺跡や小郡正尻遺跡、小郡野口遺跡において、12世紀～14世紀にかけての区画溝や水田を利用したと考えられる多数の溝が発見されていることから、これらの人々の活動が、本調査地にまで及んでいたものと考えられる。

その他の遺構では、1号溝において、第6図3のように18世紀前半～中葉にかけての磁器が出土しているが、これより新しい遺物も出土しており、遺構の時期が明確ではない。同じく5号溝からも磁器や白磁等が混在して出土しており、遺構の時期は判然としない。

以上より、今回の調査では12世紀～14世紀にかけての人々の活動の一端がうかがえたものの、調査区分が狭小であり近代以降の遺構が多いため歴史的環境は判然としない部分が多く、今後の周辺の調査成績を期待する。

福童法司跡　出土遺物観察表

<出土土器>

検査番号	因版番号	出土遺構	器種	法蓋cm (復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	残存率	備考
1	6	1号溝	土、鍋	高:3.25	外:にじみ 黒褐 (10YR7/4) 内:灰黄褐(10YR4/2)	やや粗い、細砂をやや多く含む	良	外:ハケメ 内:ハケメ・指圧压痕	口～胴上 小片	外裏にスリ付着
2	6	1号溝	磁、猪口	台:3.25 基:2.3	外:灰白(10YB/1) 内:灰白(NB/1)	緻密、微砂をわずかに含む	堅焼	外:釉薬 内:釉薬	脚下～底 約1/1	
3	6	1号溝	磁、皿	台:(4.2) 基:2.5	外:明暦灰(7.5GY6/1) 内:明暦灰(10GY7/1)	緻密、微砂をわずかに含む	堅焼	外:釉薬 内:釉薬	脚下～底 約1/2	染付、内面に砂目付着
5	6	3号溝	土、変	高:2.5	内外:褐(7.5YR7/6)	細砂を多く含む	良	外:磨削 内:壓延	口～頭 小片	
6	6	3号溝	口、皿 土、皿	口:(8.3) 底:(6.6) 基:1.15	外:にじみ 黑褐 (10YR7/4)	やや粗い、細砂をやや多く含む	良	外:回転コナデ 内:回転コナデ	口～底 約1/2	底部は回転糸切り
7	6	3号溝	変、碗	台:(5.3) 基:2.8	内:オリーブ灰 (5GY7/4)	緻密、微砂をごくわずかに含む	堅焼	外:釉薬 内:釉薬	脚下～底 約1/4	外裏邊弁文あり 内裏草花文あり
8	6	5号溝	磁、皿	高:2.6	外:明暦オーブ灰 (5GY7/1) 内:灰白(NB/1)	緻密、微砂をごくわずかに含む	堅焼	外:釉薬 内:釉薬	口～頭上 小片	染付
9	6	5号溝	磁、猪口	口:(6.9)	外:明暦灰(7.5GY6/1) 内:灰白(5YH7/1)	緻密、微砂をごくわずかに含む	堅焼	外:釉薬 内:粗重	口～脚下 約1/4	染付
10	6	5号溝	白、碗	台:4.7 基:1.3	外:灰白(5YH7/2) 内:灰黄(2.5YI7/2)	緻密、微砂をごくわずかに含む	堅焼	外:釉薬 内:釉薬	底1/1	内裏と裏臺置付に砂目付着

<出土石器>

検査番号	因版番号	出土遺構	器種	石材	計測値				備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
4	6	1号溝	剥片	黒曜石	3.35	3.75	1.4	10.8	

図 版

図版 1



①北側調査区全景（真上から）



②南側調査区全景（真上から）

図版 2



①周溝状遺構完掘（北側から）



②1号土坑完掘（東側から）



④1号溝北側調査区完掘（南側から）



③1号溝南側調査区完掘（北側から）



⑤1号溝 A-A' ベルト土層断面（東側から）



⑥1号溝 B-B' ベルト土層断面（南側から）

図版 3



① 2号溝北側調査区完掘（南側から）



③ 2号溝 C-C' ベルト土層断面（東側から）



④ 2号溝 D-D' ベルト土層断面（南側から）



② 2号溝南側調査区完掘（東側から）



⑤ 2号溝 E-E' ベルト土層断面（南側から）

図版 4



① 3号溝完掘（北側から）



③ 4号溝完掘（東側から）



② 3号溝 F-F' ベルト土層断面（南側から）



④ 4号溝 G-G' ベルト土層断面（東側から）

図版 5



① 5号溝北側調査区完掘（南側から）



③ 5号溝 H-H' ベルト土層断面（南側から）



④ 5号溝 I-I' ベルト土層断面（南側から）

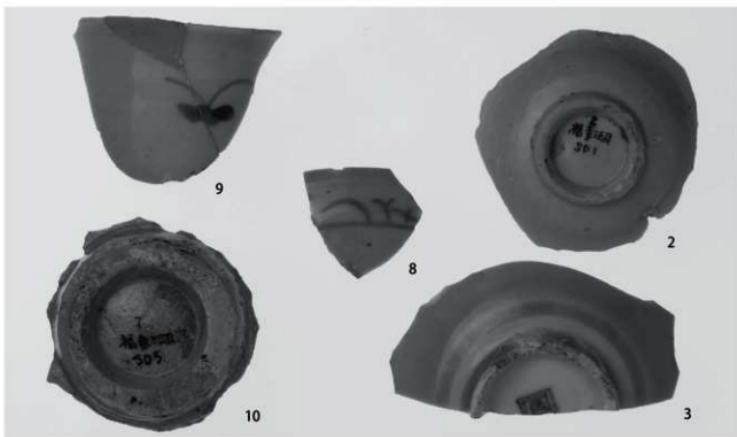
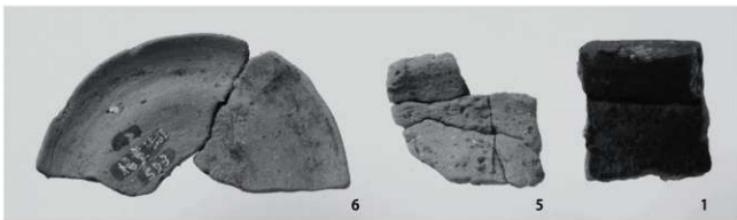


② 5号溝南側調査区完掘（北側から）



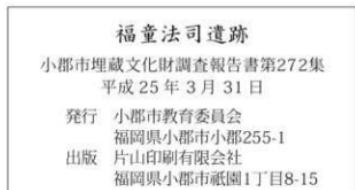
⑤ 5号溝 J-J' ベルト土層断面（南側から）

図版 6



1号溝・3号溝・5号溝 出土遺物

報告書抄録								
ふりがな	ふくどうほうしいせき							
書名	福童法司遺跡							
副書名	福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第272集							
編著者名	西江 幸子							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在位置	〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 TEL.0942-72-2111							
発行年月日	平成25年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふくどうほうし 福童法司 いさき 遺跡	ふくおかけん 福岡県 おこおりじ 小郡市 ふくどう 福童 あさき 字法司	40216		33° 23' 07"	131° 27' 27"	2012.1.10 2012.3.14	450m ²	下町・西福童 16号線 道路開発 工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
福童法司 遺跡	集落	中世 近代 現代		周溝状遺構 土坑 溝		土師器 青磁 陶磁器 黒曜石		
要約	今回の調査では、近代以降の遺構が多い中で、13世紀中葉前後に相当すると考えられる溝1条を確認した。周辺では、12世紀から14世紀にかけての区画溝や水田に利用したと考えられる溝が多数発見されている。こうした活動の一端が、今回の調査地まで及んでいたと考えられよう。12世紀から14世紀にかけてのこの地での人々の活動を復元するためにも、今後の周辺での調査成果が期待される。							



福
童
法
司
遺
跡

小都市文化財調査報告書
第272集

2013

小都市教育委員会